

2024 年度日本マレーシア学会 (JAMS) 会員総会議事録

2025 年 1 月 26 日事務局作成

日 時： 2025 年 1 月 26 日（日） 10:05-10:55

会 場： 京都大学稲盛財団記念館大会議室

議 長： 西芳実

出 席： 29 名 (委任状による出席 16 名を含む)

0. 議長選出

- ・西芳実会員が議長に選出された。

1. 報告事項

(1)総務(光成)

- ・2024 年度の研究大会の時点での会員数は 191 名。前回研究大会時より退会 5 名、入会 4 名で 1 名減。
- ・会費滞納者には個別に督促する。連絡先不明の場合は会員 ML 等で連絡先等の情報提供を呼び掛ける。
- ・2024 年 6 月 28 日に会員名簿を発行した。
- ・毎月の「知識探訪」を含め、学会 HP の情報更新を随時行っている。また、業者と打ち合わせしながら学会 HP のリニューアル作業を進めている。
- ・JAMS の YouTube チャンネルを開設した。研究大会の個別発表およびシンポジウムについて研究大会終了から 1 週間の見逃し配信を行う。
- ・会誌『マレーシア研究』の J-STAGE への掲載手続きを進めている。JAMS は会誌を刊行と同時に PDF 版を学会 HP で全文公開しているが、J-STAGE に掲載することで一層参照されやすくなり、会員の研究成果の発信および学会としての発信力がさらに高まることが期待される。現状では会誌の論説等の投稿原稿は査読を経て掲載決定となった時点で学会 HP で公開される仕組みになっており、これについても J-STAGE の早期公開機能により掲載決定時の公開が行われる。本総会で J-STAGE 掲載予算を計上した 2025 年度予算案が承認されたら 2025 年 4 月より J-STAGE への掲載を順次進めることになる。将来的には会誌の発行形態の冊子版から電子版への移行を提案することも検討している。

(2)編集(篠崎)

- ・会誌『マレーシア研究』第 13 号を 2024 年 9 月 30 日付けで刊行した。2022 年度研究大会のシンポジウムでの報告とコメントを再構成して特集「葛藤するマレーシアの教育——国民統合とグローバルな競争」を組み、論説 2 本と研究案内 1 本を掲載した。この他に論説 2 本とフォーラム 1 本、エッセイ 12 本を掲載した。
- ・2024 年 4 月 15 日に会員 ML を通じて第 14 号の原稿を募集した。現在、編集作業を行っている。

- ・会誌が多様な専門や関心を持つ会員による幅広い研究成果を広く発信する場であることを改めて確認し、投稿者、査読者、編集委員の負担を軽減するため、投稿要領、査読票、査読審査報告書を改訂し、査読規程および査読ガイドラインを制定した。査読者には、投稿原稿が持つ価値や可能性の有無についての判断、誤りや問題点の発見、投稿原稿の内容を改善するための適切な助言の案出に専念してもらい、投稿原稿の掲載の可否は査読者の意見を踏まえて編集委員会が決定することを明確にした。会誌査読規程、査読ガイドライン、査読票、査読審査報告書は第 14 号から、投稿要領は第 15 号から適用する。

(3)大会(坪井)

- ・2025 年 1 月 26 日に京都大学を会場として対面を主とする対面とオンラインのハイブリッド方式により第 33 回研究大会を開催した。
- ・会場校の準備責任者として西芳実会員を大会委員に指名した。
- ・研究大会プログラムは、公募による個別発表 4 編、ポスター発表 2 編と、学会企画の公開シンポジウム「ポスト国民戦線 (BN) 体制のマレーシアー「多民族政党の政治」の葛藤」により編成した。

(4)例会(伊賀)

- ・舩谷鋭会員を例会委員に指名した。
- ・2024 年度は特別企画 1 回を含む 7 回の例会を実施した。
- ・2024 年 4 月 18 日 (オンライン開催)
ラウンドテーブル・セッション「マレー人は保守化しているのか」
スピーカー：谷口友季子 (アジア経済研究所)、鷲田任邦 (東洋大学)
- ・2024 年 5 月 25 日 (オンライン開催)
『マレーシアに学ぶ経済発展戦略ー「中所得の罟」を克服するヒント』合評会
スピーカー (著者)：熊谷聡 (アジア経済研究所)、中村正志 (アジア経済研究所)
コメンテーター：穴沢眞 (小樽商科大学)、伊賀司 (名古屋大学)
- ・2024 年 6 月 28 日 (オンライン開催)
Wong Chin Huat (United Nations Sustainable Development Solution Network [SDSN] Asia HQ, Sunway University, Malaysia)
“Does Malaysia need a pure FPTP system? Electoral system, Power Sharing and Ethnic Relations in Post-Transition Malaysia.”
- ・2024 年 7 月 9 日 (オンライン開催)
イー・ジュン ユエン ジェイソン (東京外国語大学大学院)
「マレーシア民主行動党におけるマレー人の参加と代表：「多民族政党」の実態と変化」
- ・2024 年 10 月 25 日 (オンライン開催)
中島咲寧 (京都大学大学院)
「マレーシアの「インド人」社会を再考する：ペナンにおけるインド系ムスリム住民の歴史と現状に着目して」

- ・2024年11月18日（オンライン開催）

大室元（東京大学大学院）

「ムスリムに導かれるサラワク政治：統一ブミプトラ保守党（Parti Pesaka Bumiputera Bersatu：PBB）の優位性とその展望」

- ・2024年12月19日（オンライン開催）

八木暢昭氏（京都大学大学院）

「大規模言語モデルと統計的因果推論を用いた地域研究における再現性のある因果的仮説の探索と検証——半島部マレーシアを事例に——」

・引き続き会員に発表希望者の募集を呼びかけるとともに、担当理事から個別に発表の打診を積極的に行っていく。

(5) 学術渉外(光成)

①人文社会科学系協会男女共同参画推進連絡会(GEAHSS)

GEAHSS では人文社会科学系の研究者の男女共同参画の実態を把握するための調査を5年に1度行っており、2024年3月に第二回調査報告書が公開された。調査報告書はギースのウェブサイトで確認できる。

②地域研究コンソーシアム(JCAS)

JAMS は幹事組織として JCAS の運営を担っている。JCAS は、年次集会、地域研究コンソーシアム賞(JCAS 賞)の顕彰、オンラインジャーナル『地域研究』の刊行を行っている。今年度の年次集会は2024年11月30日に京都大学で行われ、JCAS 賞の発表および受賞者の講演が行われた。JCAS 賞は JCAS の加盟組織に所属していなくても応募可能で、締切は毎年4月第1週。詳細は JCAS の HP で確認できる。

③地域研究学会連絡協議会(JCASA)

2024年12月14日に JCASA 総会が行われ、学会誌の査読などについて情報共有と意見交換がなされた。地域研究系の学会では投稿者と査読者のディシプリンが異なることも少なくないことなどから、投稿者と査読者の主張がかみ合わない場合に投稿者と査読者の双方にとって負担が大きくなるなどがあるなどの問題が共有された。これに関して、JAMS では査読ガイドラインの作成や査読票の改訂を行ったことを報告した。

(6) 賛助会員(篠崎)

- ・マレーシアで発行されている日本語日刊紙『The Daily NNA マレーシア版』に毎月掲載されているコラム「知識探訪」の執筆者を JAMS から紹介している。執筆者は会員の自薦による。
- ・マレーシア国立博物館日本語ボランティアガイド・グループが実施するマレーシア事情研修に会員を講師として紹介している。今年度は4名の会員を紹介した。

2.審議事項

(1) 監事の任命について

光成総務理事より永田淳嗣会員を2024-2025年度の監事に任命することが提案され、原案の通り承認された。

(2) 2023 年度の決算について

光成総務理事より 2023 年度の決算報告が説明され、永田淳嗣監事により監査報告がなされ、原案の通り承認された。

(3) 2025 年度の予算案について

光成総務理事より 2025 年度の予算案が説明された。会誌『マレーシア研究』の J-STAGE 掲載予算を含め、原案の通り承認された。

(4) 2025 年度の研究大会について

坪井大会理事より、2025 年度研究大会について、2026 年 1 月後半に東京地区での開催を予定していること、具体的な日程および会場は 2025 年 4 月以降に理事会が決定して会員メーリングリストで告知することが提案され、提案の通り承認された。

以上